

事業所名		放課後等デイサービス ディライト芦屋		公表日		2026年 2月 10日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4	0	部屋数は少ないが、滞在人数の調整や活動時間をずらすなどの対応をすることで、特に窮屈感なく過ごすことが出来ている。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4	0	人員基準を順守し、余裕を持った職員配置を心がけている。	現状の少人数の中では特に不足等は感じられないが、今後人数が増えた際に職員の補充は必要になってくる。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3	1		バリアフリーに関しては、メインフロアが2階で1階からの移動手段が階段のみとなるため、肢体不自由児の受け入れは困難になっている。現在の利用児は全員自力歩行が可能で特に支障はないが、出来る限り受け入れが出来るよう、対策を適宜検討していく必要がある。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4	0	毎日の清掃活動を実施している。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	2	2		個室が不足している。今後の課題となっているが、現在必要に応じて3階を使用し、個別対応も可能ではある。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参加しているか。	4	0	職員会議を実施しており、その際に参加可能な職員が全員参加している。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3	1	評価実施後に評価内容を共有している。	情報共有する場に不在の職員への情報提供が出来ていないため、今後共有方法を検討し実施に繋げる。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	0	職員会議を実施しており、その際に参加可能な職員が全員参加している。（毎月実施）		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	1	3		外部評価は実施していない。今後実施に向けて情報収集を行う。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4	0	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員参加型の対面研修を実施していたが、日程調整が難しくなったためオンラインでの研修に切り替えて実施している。そのため、参加率が大幅にアップしている。 ・資格取得に向けた研修に積極的に参加している。強度行動障害研修など。 		
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4	0	ホームページ上に公表している。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	4	0	保護者や子どもたちに対して親身になって関わっている点が、ディライトの良いところだと思う。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4	0	定期的に意見交換の場が設けられており、子どもたちのことを気軽に話すことが出来ていると思う。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4	0	支援計画は作成後全職員に共有し、その計画を基に支援を行っている。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4	0	必要な情報を関係機関も含めて共有し、本人の現状の把握に繋げている。	今後も情報収集を行い、より充実した支援に繋げていく。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4	0	個別支援計画を作成し、保護者の同意を得て支援を実施している。その計画に、具体的な支援内容を記載している。	支援計画への記載内容をより充実させるために、今後も情報収集を行い、より具体的でわかりやすい計画づくりに繋げていく。	

適切な支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4	0	各種イベントや遊びの企画など、全職員が携わって行っている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4	0	全職員で割り振りを行い、様々な職員の個性やアイデアを出しながら様々な面で成長や経験に繋がるよう立案をしている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	4	0	個別活動や個別課題など子どもの特性等に合わせた計画を作成支援を行っている。集団活動では参加が難しい子どもも様々な形(職員の手伝いなど)で参加として捉えて集団で同じ環境で居られるよう支援をしている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	3	1	何か共有する事項がある場合には実施している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3	1	LINEなどを用いて情報共有が出来ている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4	0	個別支援の書類や、ケース記録などで毎日の様子を記録することが出来ている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4	0	定期的なモニタリング会議を実施し、計画の評価や見直しを行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	4	0	それぞれの要素を踏まえた上で、活動内容を設定している。	4つのうちの1つ「地域交流」の要素が少し乏しいと考えられるため、今後はその部分も力を入れていきたい。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	4	0	子どもたちが選択できる機会を提供し、積極的に活動に意見を取り入れている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4	0	各種会議にはディライト芦屋の児童発達支援管理責任者が参加しており、その他必要に応じて主任保育士や児童指導員なども一緒に参加している。	
	27	地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3	1	学校や相談支援事業所、他事業所との連携を行い、支援の輪を広げる取り組みを行っている。	より充実した支援に繋げるために、今後も情報収集を行い、各機関との連携を進めていく。
	28	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか。	4	0	学校への送迎時に情報共有を行っている。また下校時間等の情報共有は、保護者の協力も得ながら行っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	1	3	現在のところ該当する利用者はいない。	必要に応じて実施していく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	0	4	現在のところ該当する利用者はいない。	必要に応じて実施していく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	0	4		現在は実施していないが、今後実施に向けて情報収集を行っている。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	1	3		現在は実施していないが、今後実施に向けて情報収集を行っている。
	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	0	4		現在は実施していないが、今後実施予定あり。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4	0	連絡帳(デイロシステム)を用いて、その日の細かな状況を共有しているが、送迎時にも保護者と話すことを心がけている。	
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	0	4		現在は実施していないが、今後実施に向けて情報収集を行っている。	
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4	0	利用契約の際に時間をかけて、丁寧に説明を行っている。また、不明点の有無も確認し理解を得ることが出来るまで対応している。		

保護者への説明等	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4	0	定期モニタリングの際に面談を実施し、ニーズの把握を行っている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	4	0	計画更新時には、作成者である児童発達支援管理責任者より丁寧に説明を行っている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4	0	都度面談や電話での相談を受け付けている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	0	4		父母会は開催しない方針。 今後保護者交流イベントの実施を検討している。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4	0	苦情対応窓口を設置し、内容を契約時に伝えている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	4	0	連絡帳（デロボシステム）やLINEでの細かな連絡を行っている。またInstagramやホームページ内ブログを用いて活動内容の報告を併せて実施している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4	0	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報の取り扱いには細心の注意を払っている。 個人情報が記された書類は全てシュレッターでの断断処理を実施。 	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4	0	必要に応じたコミュニケーション方法を随時検討し、使用している。	今後も情報収集を行い、より充実した支援に繋げていく。
非常時等の対応	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	0	4		現在は実施していないが、今後実施に向けて情報収集を行っていく。
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4	0	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な防災訓練の実施（地震/津波、火災、不審者対応など） 自然災害発生時のマニュアルは各家庭向けに配布している。 	より充実した情報提供が出来るよう準備を進めていく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4	0	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練を定期的に実施している。 BCPについての研修を職員対象に行っている。 	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	4	0	契約時に利用者基本情報として、当該内容の記入をしていただき、職員間で共有している。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4	0	契約時に利用者基本情報として、当該内容の記入をしていただき、職員間で共有している。必要対応も記載。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4	0	安全面を考慮した環境づくりを行っている。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4	0	見学时や契約の際に安全面への配慮を伝えている。	伝えきれていない部分もあると思われるため、精査し必要な対応を検討していく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4	0	ヒヤリハット報告書を作成し、職員間で共有している。	
53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4	0	法人全体で虐待防止委員会を設けており、ディライト芦屋代表者の会議への参加や、虐待防止研修の受講を全職員が行っている。		
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	4	0	現状身体拘束の必要性のある利用者はいないが、必要性が出た場合のマニュアル等はある。	<ul style="list-style-type: none"> 新規の職員が入社した場合等に十分な周知が必要。 身体拘束が必要な児童が居ない為、触れる機会が少ない。 	